

厚生労働科学研究費(地域医療基盤開発推進研究事業)

「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」最終評価と
次期計画策定に資する全国データの収集と
歯科口腔保健データの動向分析 研究班

2021年度 関連知見の報告

研究代表者 三浦宏子

2021年度の研究班の目標

- 「基本的事項」最終評価に資するデータの収集と分析
 - 新型コロナウイルス感染拡大による政府統計事業の延期・中止等による欠損データへの対応
 - 既存の政府統計等の収集・時系列分析等⇒最終評価に役立つデータの提示



今回は、以下の2点について研究知見を報告

- ①国民健康・栄養調査の二次分析⇒自己評価による歯の本数の推移
- ②歯科保健行動に関するWeb調査⇒定期歯科検診の受診状況の把握

1. 国民健康・栄養調査による歯の本数に関するトレンド分析方法

- 二次利用申請により得た平成28年以降の国民健康・栄養調査データを用いて、拡張マンテル検定を実施
 - 拡張マンテル検定: k行 × 2列のクロス集計が多層ある場合に、層別要因の影響を調整したうえで行うカイ二乗検定
- 歯の本数: 対象者の自己評価

問 16 自分の歯*は何本ありますか。

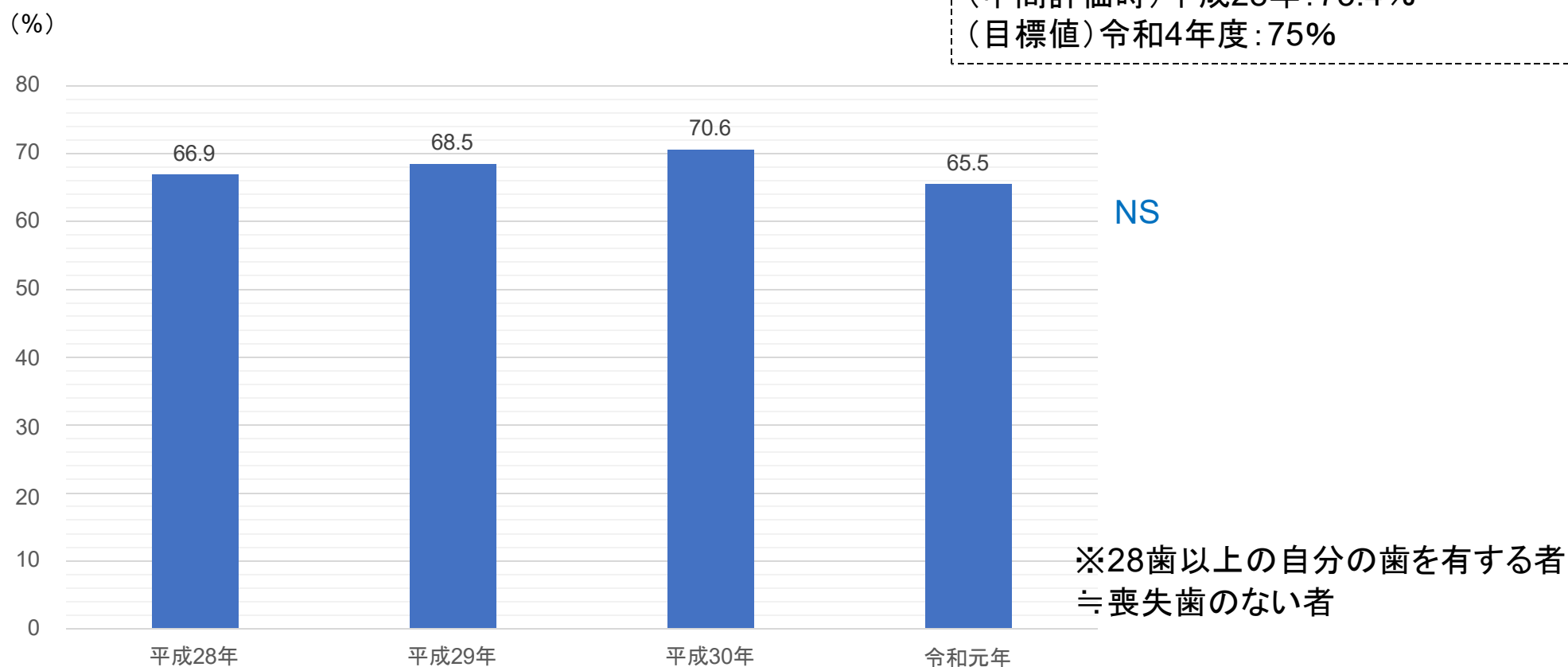
※自分の歯には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。
さし歯は含みます。親知らずを抜くと全部で28本が正常ですが、28本より多かたり少なかたりすることもあります。
0本の場合は、00と書いて下さい。

自分の歯は 本ある。

(令和元年 国民健康・栄養調査)

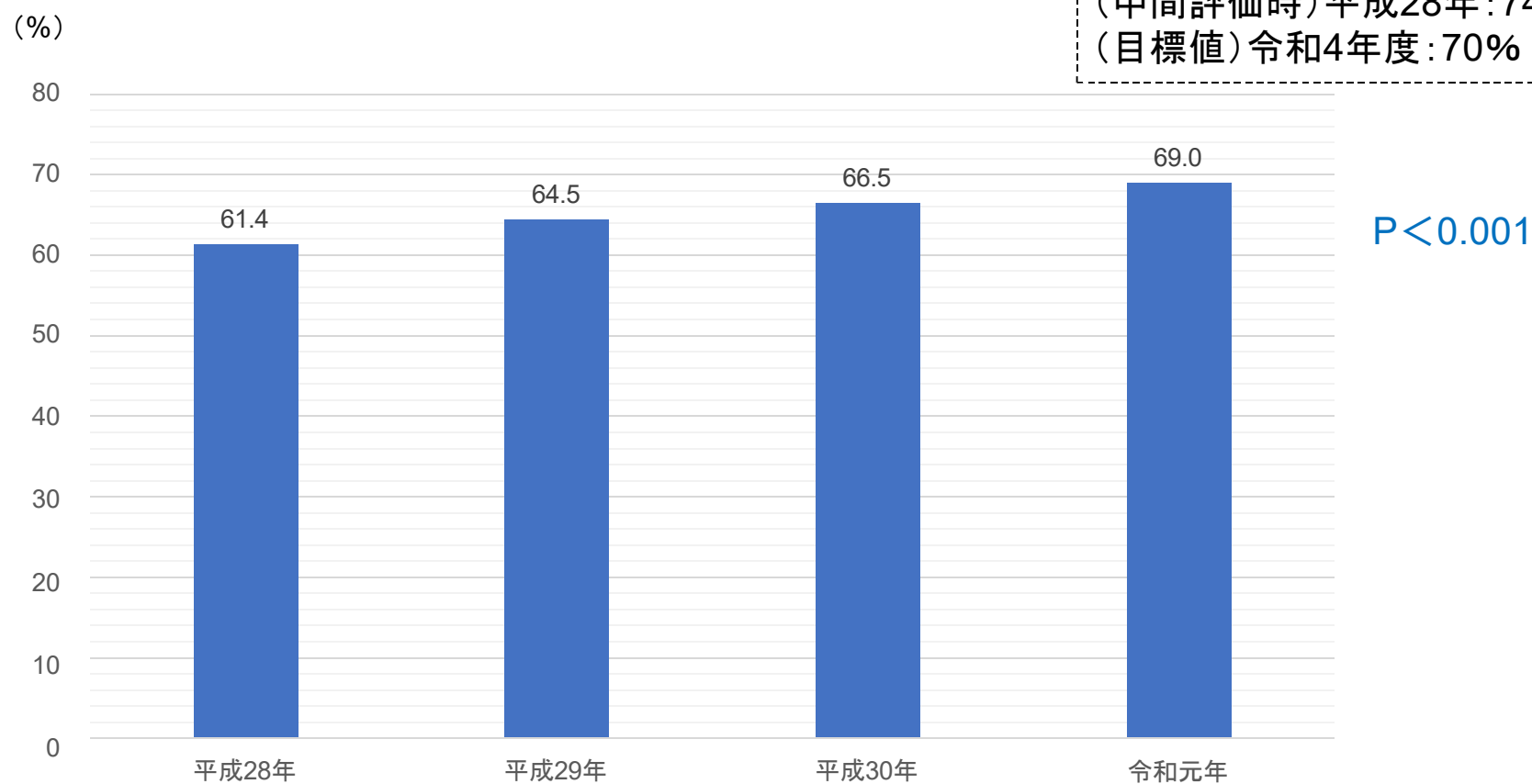
1. 国民健康・栄養調査による歯の本数に関するトレンド分析 40歳で28歯以上の自分の歯を有する者の割合の推移

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
(作成時)平成17年:54.1%
(中間評価時)平成28年:73.4%
(目標値)令和4年度:75%



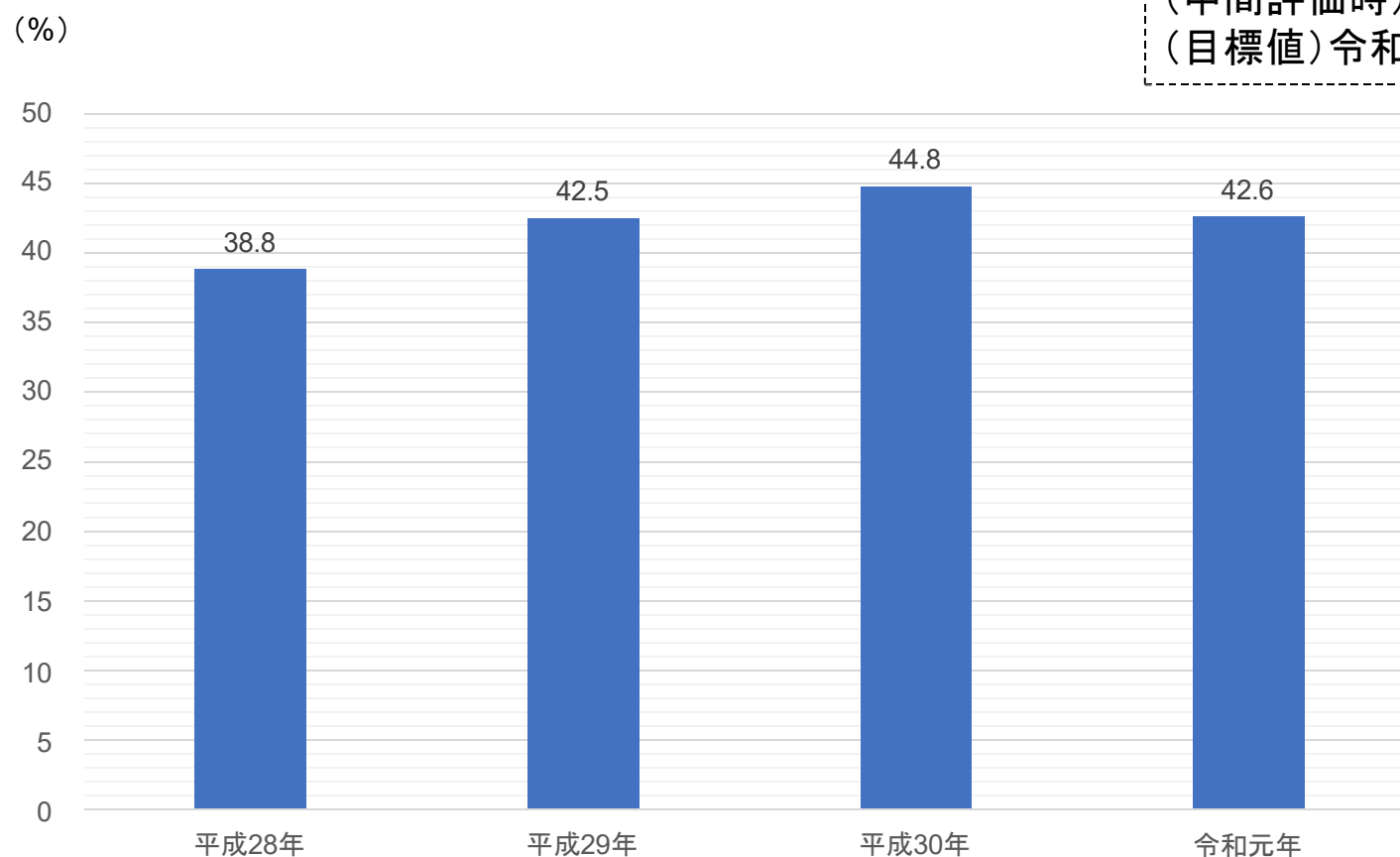
1. 国民健康・栄養調査による歯の本数に関するトレンド分析 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の推移

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
(作成時)平成17年:60.2%
(中間評価時)平成28年:74.4%
(目標値)令和4年度:70%



1. 国民健康・栄養調査による歯の本数に関するトレンド分析 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の推移

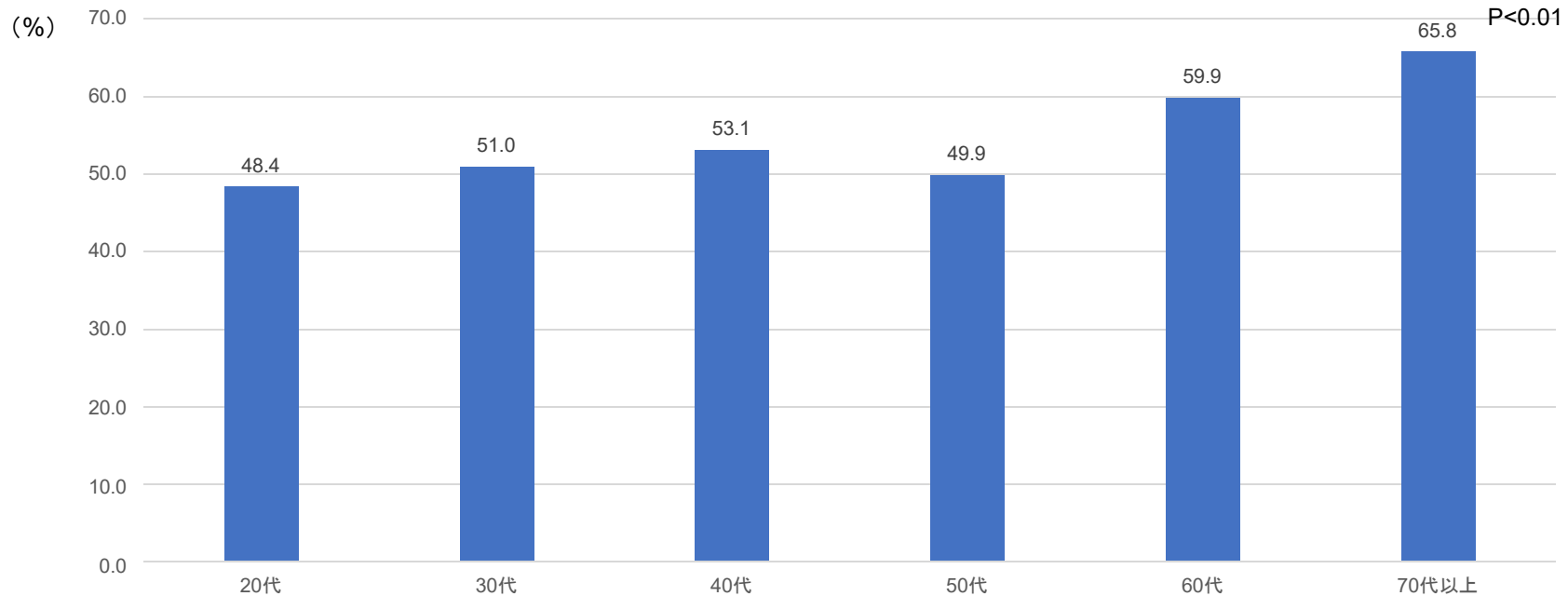
歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
(作成時)平成17年:25.0%
(中間評価時)平成28年:51.2%
(目標値)令和4年度:60%



2. 歯科保健行動に関するWeb調査方法

1. **対象者**: 20歳以上の成人・高齢者3,556名 (ネット調査会社の登録モニターに対する調査)
2. **対象者サンプリング方法**: 年代、性別、地域ブロック分布を踏まえて、以下のように各群にサンプルを割付
 - 平成27年国勢調査の結果に基づき、20歳以上の対象者を96群に割付
 - 年代(6群) × 性別(2群) × 地域ブロック(8群) = 96 群
3. **調査項目**
 - ① 過去1年間の歯科検診の受診経験
 - ② かかりつけ歯科医の有無
 - ③ 過去1年間の歯科保健指導を受けた経験
 - ④ 歯みがき頻度
 - ⑤ 歯間部清掃習慣 など

2. 歯科保健行動に関するWeb調査 定期歯科検診 受診率



- 全体の受診率は55.8%
- 年代との間に有意な関連性あり($p<0.01$)。
- 高齢層では他の年代より高い値を示した。
- 参考: 中間評価での値(平成28年)は52.9%

結果のまとめと考察

- 基本的事項の中間評価以降の「歯の喪失」状況について、目標値が設定されている40歳、60歳、80歳でのトレンドを、**国民健康・栄養調査での自記式質問票の結果**を用いて評価したところ、以下の結果を得た。
 - 40歳で28歯以上有する者の割合：有意な変化なし
 - 60歳で24歯以上の歯を有する者の割合：有意に増加
 - 80歳で20歯以上の歯を有する者の割合：有意に増加
- 歯科保健行動に関するWeb調査での定期歯科検診の受診率は55.8%であった。Web調査の限界はあるが、サンプリング方法等を工夫することによって、全国規模データを得ることができたと考えられる。